

炎の中に消えた空港 札幌飛行場



昭和17(1942)年9月 札幌市公文書館所蔵

現在、札幌の飛行場といえば、東区にある札幌丘珠空港です。しかし、今夏のオリンピックのマラソンコースとなった北24条西地域に、北海道と東京を結ぶ唯一の航空路を持つ、札幌飛行場があったことをご存じでしょうか。

大正15(1926)年、新聞の記事原稿や報道写真などを運ぶ手段として飛行機を活用していた旧北海タイムス社が、北24条西地域に滑走路を設置したことから、この飛行場の歴史が始まりました。その後、当時の通信省が拡充整備し、道内初の国営飛行場となりました。当初、札幌―東京間の定期航路の所要時間は6時間程度。汽車では27時間ほどかかっていたため、飛行機の速さは画期的でした。また、太平洋戦争中は、製鉄・兵器工場のあった室蘭を守備するため、陸軍飛行隊が配備されるなど、軍用飛行場として活用されました。

昭和20(1945)年の秋、アメリカ進駐軍兵士の放った火炎放射器の炎によって札幌飛行場は焼失してしまいました。現在では、門柱のみが残されています。



現在の札幌飛行場正門跡

▼東側の門柱には「札幌飛行場」の文字。
現在、門柱の奥には住宅地が広がっています。



◀門柱の隣には、彫刻家の坂坦道(さかたんど)氏が同飛行場をしのいで作成した、プロペラにパイロットの顔をあしらった「風雪」碑が建立されています。

札幌飛行場正門跡
所在地 北区北24条西8丁目
アクセス 地下鉄南北線「北24条駅」徒歩8分

▼「北区歴史と文化の八十八選コースガイド」でも紹介しています。コースガイドは区役所などで配布中!

広告